

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	アルパカプロジェクトーボリビアと在日ボリビア人女性の元気、生きがいのためのビジネス創出
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人日本ボリビア人協会
(3) 実施期間	2022年3月15日～2023年3月14日
(4) 実施国	日本（ボリビア）
(5) 活動地域	「ボリビアのリオ・セコ」・「日本三重県津市」
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>ボリビアの貧困層の生産するアルパカ毛を日本で製品化し、日本でのアルパカ製品販売を行うことによって、ボリビアの貧困層の収入を増やし、生活水準を向上させること、また在日ボリビア人の抱える問題—高齢化による就労場所の減少、生きがいづくりなど—を改善する、という二点の理由から、この企画に着手した。ボリビアでのアルパカ毛の品質向上、日本人のニーズに合うデザインの商品開発、作り手である三重在住ボリビア人のスキルアップなどの改善の必要性があるため、応募に至った。</p> <p>②活動の目標：</p> <ol style="list-style-type: none">ボリビアのアルパカ毛系の生産技術を向上させ、販売を増やすことによって、ボリビアの貧困層の収入を増やし、生活の向上を目指す。在日ボリビア人コミュニティ全体に新たな生き方・ビジネス創出の可能性を提案する。ボリビアで生産された良質なアルパカ毛系で作った手編み製品を日本で紹介し、ボリビア文化を広く伝える機会を増やす。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容①】

4月23日に編み物教室の実施を行い、プロジェクトをスタートした。全12回の編み物教室を行った。お休みをする方たちもいたが、全講座は出席率90%を維持。受講者の編み物に関する知識にばらつきがあり、講座を終えるころには、全員基本的な知識を身に着けることが出来た。特に全く初心者からスタートした受講者の成長が大きかった。今は帽子にもなるデザインのネックウォーマを11個、編むことが出来た。編んだ編み物を包むラッピング講座を11月に2回行った。

ラッピング講座では皆個々にいろいろ試しながら、楽しい雰囲気で行うことが出来た。編み物がほどこないようにする技術の授業も行いとても好評であった。最後の講座は今までの編み物教室に関する感想等を話しあって終わった。

【実施内容②】

今年の1月に行うボリビアでの活動のため長野県へ視察しにいった。11月3日(日)JR富士見駅に到着。八ヶ岳アルパカ牧場の総責任者広田様に出迎えていただき、アルパカ牧場を案内して下さった。日本でのアルパカ繊維の精製技術やアルパカ商品の販売促進、アルパカの飼育方法を学びに来た旨及び経緯等改めて話した。アルパカ牧場では一番人気のあるアルパカダービを見学し、アルパカと実際にふれあい、実際の飼育方法、八ヶ岳アルパカ牧場では飼っているアルパカに与えている食料をアメリカから直接輸入していること、アルパカの毛を洗う方法等を教わった。次にANANDA社を紹介され、アルパカ繊維やその他のウールの種類、ビジネスモデルについて教えて頂き、さらにそこで行われている洗浄工程を見学。今までなかった知見を得ることができた。AMANDA社でもこれから事業を進めていく中で、起こりうる問題や解決方法などについて長い事話をし、アドバイスまで頂いた。この出張ではアルパカの飼育環境及び飼育方法が繊維のクオリティーに影響することを知れたのはプロジェクトの進め方にも関わって来る大きな学びであった。それによって、日本では出来るがボリビアでは実現が難しい事、例えば：アルパカはよく体を地面にこすりつける習慣があるようだが、それによって毛に多くの不純物がつくのだが、ボリビアは放牧されているのがほとんどで、日本のような綺麗な環境で飼育することは難しい、今回お邪魔した場所では日中は外にいるが、寝る場所は綺麗に整備された場所でアルパカをやすませている。そして午前中は飼育小屋を毎日綺麗にしているので、アルパカの毛に不純物が混ざることとはほとんどない、ボリビア現地同じ形で飼育するのは、文化や環境によってとても難しいため、ボリビア現地にあった、不純物が混ざらない飼育方法がないかを見つけるのが一つの課題として感じた。ボリビアでも技術を教えて、現地でも実施出来るように準備をしていたが、12月28日にカマチョ・サンタクルス県知事の逮捕に伴い、ボリビアで暴動やストライキ等が起こった。最初はサンタクルスから始まった暴動やストライキ等が他県でも行われ、ラパスまで影響が及んだ。当団体が行う予定であった場所から程遠くないところ(エル・アルト)で現地の方々と現地警察との衝突もおこり、数十人の負傷者もでたため、現地ではこのプロジェクトに参加して下さる予定であったボリビア人グループの一人一人が家から出るのを怖がり、結果的に集まる事がとても困難な状況になり、悪い治安が今以上に悪化することを懸念して、安全を第一に考えてとても残念ではあったがボリビアへの渡航を断念。現在は状況が比較的におちついているため、今後渡航することに支障はないと思われる。

【実施内容③】

渡航のキャンセルを受け、追加の編み物教室を5回実施した。主にかぎ針の編み方を講座に追加した。また、今回初めての試みで、長野への視察を行った際に学んだ、毛糸を洗濯する方法の練習を行った。

(2) 実施成果：全体を通して

1. プロジェクトに参加した方たちは“編む”という行為を通じて手に職をつけることで、お金を得ることが出来るとモチベーションが高い。
2. 先生からのプロジェクトに関する評価が高いため、教えるモチベーションが高い。
3. 参加者のモチベーションが高いため、講師との相性がよく、参加が気持ちよく学べる環境を提供することができた。
4. 編み物教室を通じて、趣味で終わっていた編み物を、編んだ物を売ることが出来るレベルまでに高めている。
5. 手で編んでいるが、これらの編み物教室では、異なる技術で編む方法を勉強することでより広い視野で、人々を訓練するのに役立っている。
6. ハケ岳アルパカ牧場の訪問で、アルパカ繊維のクオリティーはアルパカの飼育環境が大きく影響しており、アルパカの繊維を洗う必要があることを学んだ。、アルパカ繊維を洗った後に出来る糸の特徴等を活かして編み物を行う大切さを知り、編み物教室の編み方に活かすことが出来た。また、ボリビアでの環境に適した方法で飼育を行いながら、できる限り毛に不純物がつかないように環境を作るのが課題であることを知ることが出来た。
7. 日本での編み物教室を通じて、今後は編み物その物技術もだが、販売ノウハウをプロの方に専門的な技術などや、経験によって得たやり方やコツを教えていただいで、もう一段とステップアップする必要があると感じた。
8. 南米は政治的にとても不安定なところでもあるから、今回のような暴動やストライキが起こる可能性があり、起こった場合のバックアッププラン等を設定し、プロジェクトが止まらず、出来る限りスムーズに進行で出来るようにする事が大切と学んだ。
9. 日本とボリビアに文化の違いもあり、ボリビアでは日本に比べて現地でのリスクも多いため、参加者が同じような認識とモチベーションで進めていくことが大切だと気づきを得ることが出来た。
10. ボリビアに行けなかった事で、現時点で気が付いていない問題点等がないかをあらゆる方面で検討することが大切だと気が付いた。
11. プロジェクトとしては3年間の中の2年目にあたり、1年目に比べて、いろいろな面でスムーズに進まなかったり、多くの課題が残された1年になったが、これはプロジェクトを素晴らしものにするために、とても必要な経験であったと感じる。その経験によって学びも多かった。しかし、これを学びだけのものにせず、引き続き、このプロジェクトに活かしていきたいと強く感じる。
12. いろいろな課題はあるものの、頑張っって最後まで諦めずに行いたい。

(3) 得られた教訓など：

新型コロナウイルスの影響により、同じ環境で会うことが難しいにもかかわらず、定期的にワークショップに参加する難しさ、その中でも、授業をより良いものにして、出来る限り、生徒自身が参加したいと思う環境を作る大切さを得られたこと、及びボリビアへの渡航が中止になったのは残念であるが、中止になったことで日本での活動をよりよい物に出来るよう時間の使い方や活動の仕方を変えることで有意義なものに出来ると教訓を得ることが出来た。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

もう一度 JICA 基金活用事業を活用したいと考えている。今回渡航キャンセルにより、実施できなかった現地活動を行い、最終的にボリビアより、アルパカ100%の毛糸を買い取り、その毛糸で編んだ商品を日本で売る事を目指している。今後は現地の活動を中心に行う予定。今の計画を再度精査し、起こりうる問題、問題を未然に防ぐ方法、起こった場合の代案、代案に変えた場合のリスクやプロジェクトへの影響、改善できる箇所等をあらいだし、現地での活動がスムーズに行えるようにする。今後は編み物教室だけではなく、編み物教室で編んだ物を販売にこぎつけるように、より実践に近い講座や必要なビジネスの知識を得れるように。日本では行っていけばと計画をしている。また、今後の活動等を再度見直す過程で、課題として出てきた問題を踏まえて、出来あがった計画を今一度専門の方に見て頂くのも一案ではないかと考えている。ボリビアからアルパカ100%の毛糸を買い取り、輸入に、その毛糸で編んだ商品を日本で販売に関しては、販売数量は、オーダーメイドで手編み制作のため、10人の制作チームで月にセーターで50枚程度の販売が可能であると見込んでいるが、編み手を増やししながら数量増加を目指したい。販売方法としては、具体的には他の公共団体と連携して事業を進める。インターネットでの販売だけでなく、イベントスペースや百貨店などでの展示販売を行いたいと考えている。各団体主催のイベント編み物の出展をすることで、販路を開拓し、将来的には編みもの教室を定期的で開催し、地域の方々との交流の場を創出し、特に編み物をされている高齢者との交流の場を生みだし、多文化共生ビジネスのモデル事業となる。そして、全国のデパートで売れるようになれば、今まで以上にボリビのア文化を日本の皆様に知ってもらうことで国際理解の機会になり、三重県の多文化共生社会の実現に寄与するだけでなく、ボリビアのアルパカ毛糸の生産技術を向上させ、販売を増やすことによって、この事業の目標でもあるボリビアの貧困層の収入を増やし、生活の向上を目指し、日本で住んでいるボリビア人のコミュニティ全体に新たな生き方・ビジネス創出の可能性を提案する事ができる。

フォローアップとして、出来る限り編み物教室に参加して頂いた受講生たちと定期的に様子を見て、編み物を続けるように促す。これはだいぶと先になるが、今の参加者たちは技術的にも申し分なく、スピードの悪くないことから、出来る限りビジネスに関して多くの事を学んで、経験をしてほしいと考えている、そして、学んだこと及び経験を次の世代に教えていけるようになれば一番うれしいと感じる

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

パッケージの教室で、1人の生徒がボリビアから訪問している従妹を連れて来た際に、その従妹がパッケージの仕方の授業に感動し、ボリビアでも勉強をすると一部始終録画していたことがとても印象的だった。また、最後にみんなで話し合った編み物教室の感想等を聞いて、思った以上に参加者皆さんの役に立っていることを知れてうれし張った。例えばストレス発散になっていたり、またみんなで集まって編み物を編んでいたこともあり、情報交換の場になった。例えば、ニュースに関する話題も多くでて、日本の社会の事についての情報交換も行われていた。

また、運営側からの視点では皆さんコミュニケーションスキル及び環境に順応する能力が高く、一緒にプロジェクトの話やニュースの話をみんなでしたことはとても面白かった。印象的だったのは日本語能力に比例して得られる情報に差があることを知ったことである。何より、参加者皆が楽しんで参加してくれたことがとてもうれしく、このプロジェクトを進めるのに大きなモチベーションになっている。

(2) 活動の写真



(編み物教室)



(編み物教室)

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

与えて下さったこの機会によって、日本とボリビアでアルパカを育て、羊毛を販売する人々の間の絆を強化することが出来た。在日ボリビアボリビア人の方々が、製品を作り、

将来的にその製品を販売できるようにするために、日本ボリビア人協会がお手伝いできること自体が団体の成長につながっている。これによって両方のグループが作業リソースを生成し、

経済を実装するのに役立っている。時間はかかったが、レベルの高い技術を参加者は得ることが出来、少しずつではあるが、プロジェクトを始めた時期から比べると、講師のレベル、参加者の編むレベルが上がり、個々の力で販売できるようになる目標に確実に近づいている。

また、いろんな面で課題が出てきて、課題を解決することで、今までない経験をさせて頂いて、新た知識を得ることが出来ている。このプロジェクト全体に対していえることだが、団体個人で行っているわけではなく、JICAの方々も含め多くの方を巻き込んで初めて行えるモデルであるから、多くの方々との出会いがあり、その出会いによって問題も出て来るが、気づかせてくれることも多く、参加者全員が何かした学び、お互い刺激しあっているのも団体の成長につながっている大きなポイントであると感じている。そして、プロジェクトを進めていく中で、必ず順調ではないからこそ、問題解決スキルが向上するだけでなく、お金のマネージメントに関して、学ぶことが出来た。この経験を活かして、もちろん今後の色々な活動の中で、適せつな金銭のマネージメントを他のプロジェクトや当団体で活動に活かすことが出来る。

そしていずれは、この経験を伝え、伝えた人たち、技術を教えた人たちが、また他の人たちに伝え、少しでも大きくなくてもより良い社会に為貢献できることをねがっている。

以上